

ヴォリュームアキュライザーの導入(24)

－中間総括－

1. 始めに

インフラノイズ社から、[ヴォリュームアキュライザーVRA-7](#)が発売されたとの情報を入手し、早速導入して試聴を行ってきました。今回、前報(23)までの結果について総括を行います。なお、修理中のアンプもありますが、追って試聴が終わり次第追加いたします。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴経過

ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴経過は次のとおりです。また、結果の要約をオーディオ資料室収載の[VRA-7効果1](#)に示しています。

ヴォリュームアキュライザーVRA-7の仕様と評価計画

ヴォリュームアキュライザーの導入(1)

パッシブアテネーターへの適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(2)

ヴォリュームアキュライザーの導入(3)

ヴォリュームアキュライザーの導入(4)

ヴォリュームアキュライザーの導入(5)

フェーダーへの適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(16)

プリアンプへの適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(6)

ヴォリュームアキュライザーの導入(7)

ヴォリュームアキュライザーの導入(8)

プリメインアンプおよびパワーアンプへの適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(9)

ヴォリュームアキュライザーの導入(10)

ヴォリュームアキュライザーの導入(19)

ヴォリュームアキュライザーの導入(20)

ヴォリュームアキュライザーの導入(21)

ヴォリュームアキュライザーの導入(22)

ヴォリュームアキュライザーの導入(23)

デジタルアンプへの適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(11)

ヴォリュームアキュライザーの導入(17)

ヴォリュームアキュライザーの導入(18)

DAC への適用

ヴォリュームアキュライザーの導入(12)

ヴォリュームアキュライザーの導入(13)

ヴォリュームアキュライザーの導入(14)

ヴォリュームアキュライザーの導入(15)

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果要約

1) 適用対象と効果の程度

・DAC への適用

まずは、ヴォリュームがあっても、必ずしも大きな効果が期待できない適用例から紹介します。ヴォリューム付き DAC が 4 機種ありますが、S/DIF 入力や USB 入力から DAC として使うと、VRA-7 をヴォリュームに貼ってもほとんど音の変化はありません。わずかに、城下工業の SWD-DA20 で若干の効果がある程度です。しかしながら、アナログ信号のライン入力があつて DAC プリとしても使える MYTEK の Brooklyn DAC+ では、アナログライン入力もしくは MC フォノ入力、ヴォリュームの設定をアナログヴォリュームにすると、旧式の真空管式プリアンプに適用した場合ほどではありませんが、かなりの効果が認められました。従ってヴォリューム付き機器なら何でも大きな効果があるというわけではないことに注意しておくべきでしょう。

・パッシブアテネーターへの適用

パッシブアテネーターとしては、FIDERIX の TruPhase と Ex-Pro の SV-1 を使用しています。前者は抵抗切り替え型、後者は巻き線抵抗型のアテネーターですが、ともに劇的な効果がありました。特に、ヘンデルのメサイア、ベートーヴェンの第 9、マーラーやブルックナーなど、長年格闘してきた大編成の曲で、眼前にオーケストラや合唱団が展開する様は初めての経験です。

・フェーダーへの適用

パッシブアテネーターと同じような機能をもつものですが、フェーダーのヴォリューム調整ノブへの適用も実施しましたところ、効果はパッシブアテネーターと同じような効果がありました。

・真空管プリアンプへの適用

現在使用しているプリアンプは、時代物の Leak Point 1、若松通商 Maranz7 タイプキット、しなの音蔵オリジナルプリアンプなどです。これらのヴォリュームに VRA-7 を貼りますと、パッシブアテネーターの場合と同様、劇的な効果

がありました。音質向上の方向性としては、パッシブアテネーターの場合とまったく同じです。最新機種に買い替えず、使い続けて良かったと思う反面、満足できなくて手放した、Lux CL-30、Lux CL-36、マッキン C29 あたりもやってみたかったと悔やんでいます。

・真空管プリメインアンプへの適用

真空管プリメインアンプは、これも時代物の Rogers Cadet III と三栄無線の EL84 シングルアンプです。Rogers Cadet III は、前段にパッシブアテネーターを加えてパワーアンプのようなかたちで使っています。駆動するスピーカーは Rogers Cadet III が、EMI のスタジオモニター DLS529 (通称アビーロードスタジオモニターの一つ) で、EL84 シングルアンプは LINN の壁掛けスピーカー Classik Unik です。ともにパッシブアテネーターや真空管プリアンプと同じような方向での変化があります。EMI のスタジオモニターは、地味な音が一変し、本来のモニタースピーカーの真価を発揮したような精度の高い音になりますし、LINN の壁掛けスピーカーはサイズの関係から箱鳴りが気になっていましたが、こもったような音がなくなりました。

・真空管パワーアンプへの適用

パッシブアテネーター、真空管プリアンプ、真空管プリメインアンプと、その効果を確認してきて、真空管パワーアンプへの適用の順番になりました。

一般論としてパワーアンプのヴォリュームは、スピーカーの能率などに合わせていったん設定すると、常時細かく調整するものではありません。このため、ヴォリュームは小型であったり、ピン状やつまみ状であったり、特に旧型機ではヴォリュームそのものがないものもあります。また、L/R 二つのヴォリュームがあつて、それらが近接していて VRA-7 を貼りにくいものもあります。そういうわけで、なんとか強引に接触面積も十分に取れず、変則的な貼り方のまま真空管パワーアンプに VRA-7 を貼ってみました。

結果は、PX25 シングル、KT66 シングル、6V6pp、45pp など、いずれも時代物の真空管パワーアンプですが、真空管プリアンプなどに劣らない効果があり、さらに真空管プリアンプもしくはパッシブアテネーターのヴォリュームとパワーアンプのヴォリュームとの併用に興味が沸いてきました。これらについてはシリーズを改めて検討します。

・デジタルアンプへの適用

真空管プリメインアンプなどへの適用の結果に気を良くして、三つのシステムでステレオ誌の付録のデジタルアンプにも適用してみましたが、デジタルアンプたる由縁か、効果を認めることができませんでした。結果としてメーカー記載のとおりとなり、今回は、ネガティブデータとしての確認になりました。

2) 音源の種類

音源としては、アナログ、CD、DSD や MQA のハイレゾ音源、ベルリンフィル デジタルコンサートホールのようなストリーミング再生を問いません。長年格闘の末、大編成の曲の再生において、ここまでのレベルに到達できたことは喜ばしい限りです。

3) 音楽ジャンル

クラシック主体の試聴でしたが、一部、倍賞千恵子の日本の歌曲や Misty など聴いてみましたが、効果がありました。機会を見て、クラシック以外の音楽に堪能なオーディオ仲間の評価を受けたいと思っております。

4) 音質の変化内容

アンプが替わったようになることはもちろんのこと、スピーカーが時代物やサブシステム的なものであっても、アンプに手を加えるだけで、スピーカーが変わったように鳴りだす不思議な現象が起こります。例えば、小型のスピーカーのサイズが変わったようになり、音のこもりが解消したりしますし、JBL4350A ではホーンのあばれが気にならなくなったりします。

また、アナログ再生では、Garrad401 のように、アナログプレイヤーシステムが変わったかのようにも感じます。

このように VRA-7 は、敢えて自己を目立たさず、主演者を引き立てる名脇役のような存在と言えるでしょう。

個々の曲では、ヴァイオリンの倍音が豊かになったり、ピアノの打鍵が明瞭になったり、ボーカルに張りがでてきたり、オーケストラや合唱の分離がよくなったというような変化がありました。

4. まとめ

上記のように DAC やデジタルアンプなど一部の機器を除いて大きな効果を認めました。

インフラノイズの設計思想としては、問題があるとき、新規の別の方式に転向せず、現状の問題点を直視し、正面からそれらの欠点を是正しようというスタンスのように感じられます。GMP クロックや一連のリベラメンテシリーズ、一連のアクイライザーシリーズについてそのように感じます。

今回、可変抵抗型のヴォリュームを有するアンプのパフォーマンスにおいて、改めて、その欠点と解消方法について気づかされた次第です。

以上